

第2回「徳島市地域公共交通協議会」 会議録（要約）

平成21年5月20日（水）午後1時30分～午後2時30分
徳島市役所 8階 庁議室

1 開 会

2 あいさつ

会長：佐藤第二副市長

3 委員等の交代について

（事務局）

委員の交代について 上林委員、栗村委員、敷島委員、中本委員を紹介
アドバイザーの紹介について 佐野首席運輸企画専門官を紹介
幹事会の幹事長として 鈴江都市整備部まちづくり推進総室長を紹介
事務局について、地域交通課が担当し、地域交通課長の松本他四人が担当することを
報告。

4 規約改正の報告について

（事務局）

【資料1】により協議会規約改正の説明

5 協議事項

協議事項については、協議会規約第5条により会長が議長となり、議事進行について
とりおこなう。

（議長）

それでは、規約に基づきまして、議事の進行をさせていただきます。協議事項（1）
の徳島市地域公共交通総合連携計画策定調査業務にかかる業者選定について事務局に説
明をお願いします。

（事務局）

【資料2】及び【資料3】により説明

（議長）

業者選定につきまして、ご意見、ご質問等ございませんか。

(委 員)

業者の参加資格における公共交通計画の策定の実績は、全国での実績なのか。

(事務局)

そうです。

(委 員)

全国だと30社ほどあると思うが、全部指名するのか。

(事務局)

徳島市の指名業者の中で、該当するすべての事業者に通知し、手挙げ方式をとらせていただきます。

(議 長)

業者数はどのくらい。

(事務局)

20社ほどです。

(委 員)

企画提案書の著作権は、特定された業者のものを使用できるのか、それとも提案は出したが特定されなかったものも無償で使用できるのか。

(事務局)

採用されたもの及び採用されなかったものも使用できます。

(委 員)

参加業者が1社や2社の少数の場合、若しくは、ない場合どうするのか？

(事務局)

ない場合については個別に協議することも考えています。

(アドバイザー)

連携計画策定業務で重要なのは、住民の意向を把握していくこと。項目としては、今回で十分であるが、実際に行っていく中で、住民の意向をどこまで吸い上げられるのか。もうひとつは、先進地事例について、徳島に合ったものを提示していくのが重要である。

(議 長)

他にご意見もないようなので、業者選定については案のとおり決定させていただいてよろしいでしょうか。

(委 員)
異議なし。

(議 長)
それでは、協議事項(1)の業者選定につきましては、案のとおり決定いたしました。次に協議事項(2)の公共交通に関する市民意向調査について事務局に説明をお願いします。

(事務局)
【資料4】により説明

(議 長)
公共交通に関する市民意向調査につきまして、ご意見、ご質問等ございませんか。

(委 員)
コミュニティの会議に事務局が出向いて聞取り調査をするのか。

(事務局)
はい。

(委 員)
協議会によっては、いつ会議をするか決まっていない。9月末～10月末の期間にするのであれば、事前に確認してからでない都合が悪いと思う。
また、アンケートについて、各団体によって意識が違う。老人会や婦人会、PTAなどでも意識が違う。その辺を考慮してアンケートをとったら良いのではないか。

(事務局)
事前に開催予定をコミュニティ協議会の事務局に聞いて、日程調整をする予定です。
聞取りの項目については、団体によって異なる意識があるということを考慮して、調査を進めていきたいと考えております。

(委 員)
住宅密集地と人が少ないところとではかなり意識が違う。そのへんを考慮してもらいたい。
もう一つは、郊外の方は、停留所が遠いから、停留所に駐輪場や駐車場があればバスを利用するかといった項目をアンケートに入れたほうが良いのではないか。

(議長)

パークアンドライドのような方法の質問を入れるということで。

(事務局)

検討します。

(委員)

3000人からアンケートを回収しても、アウトプットが出ない。よく行っている方法は、大きい病院やスーパーなどで聞き取り調査を行って、車で来られた方に、なぜ車であつたのかということや、どこから来たかといったことでフォローアップする。そういった調査をすれば良いのではないか。

(事務局)

柱としてはアンケート調査と出向き調査の2本立てで行うのと、市営バスで今年、これとは別にバスの利用客の状況調査ということで、OD調査を含めてすることになっていますが、今言われたような個別の病院やスーパーでの意見抽出も検討していきたいと考えております。

(委員)

市民の意向を連携計画に反映させるためには、コミュニティ協議会への出向き調査は重要である。地域を通る路線バスの利用者だけでなく、バスを使わない人も地域住民としてどういう意識を持っているのか問うべきである。

(事務局)

利用していない人の意識とかその人が地域でどうしたら利用したいかといったことも考えていきたいと思ひます。

(委員)

3000人というのが多いか少ないかあるが、アンケートは返ってくるのか。

(議長)

回収率はどのくらいなのか。

(事務局)

徳島市では他にもこういった調査で2000~3000人というのが多いですが、回収率は3割から多くて4割です。

(委員)

バスの間隔が短かつたら、みなさんバスに乗る。バスを出しても交通が悪いと、間隔が広くなり、間隔が広くなつたら利用者が少なくなる。郊外においては、なおさらそれ

が顕著になる。もし、通勤にバスを使うのであれば、郊外で広い駐輪場や駐車場を作って、集めてバスを出すというやり方を考えていっても良いのではないか。

(委 員)

今は乗らないけども、年をとって免許を返してバスに乗ると言う人達も、車を使っているけど将来的には必要があるのでバスを残して欲しいというような項目をアンケートに入れてはどうか。郊外ではデマンドバスというようなことをやっているところもあるし、中心部から離れるとそういうことも考えられる。

(委 員)

規制関係ではないが、アンケートでラッシュ時の関係とか、定時制の事が聞けるのかなと思う。

(アドバイザー)

住民がバスを自分たちの事として考えるということが大切である。乗らないとバスは維持できないということをいかに住民にアンケートを通して相談するかというのが重要である。

もうひとつは、アンケートに選択式と組み合わせながら具体的に書いてもらうというのが重要である。

(議 長)

そのとおりだと思います。コミュニティ協議会に出向き調査するというのはそういう意味では意義があると思います。

徳島市内でも地区ごとにより交通の便の差がありますし、最低、一日5便程度しかバスが走っていないような所もございます。各地区ごとに取り上げていくことが一番重要だと思います。そういうことを頭に入れて出向き調査、アンケート調査を実施していかなければならない。ただ、調査なので一般的、平均的な答えになってくるのかもしれませんが、その取っ掛かりとして、コミュニティの中に入って行って、コミュニティの中から交通、特にバスをどう維持するのかということ議論するきっかけにしていくものであると思います。

それでは、他にご意見ないでしょうか？なければこのアンケート内容で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(委 員)

異議なし。

(議 長)

異議なしということですので、この提案どおりアドバイスをいただいた分も考えながらアンケートを実施してまいりたいと思います。

その他事項でございますが、今後のスケジュールと補助金申請等の説明を事務局から
お願いします。

(事務局)

【資料5】及び【資料6】により説明

今後のスケジュールと補助金申請等について、意見はなかったため、協議事項につ
いては終了し、全体についても意見はなかったため、閉会した。

6 閉 会

(14時30分終了)